

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月1日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 26】

「松崎明秘録」は革マル内の主流派・JR派の対立を明記！

JR総連と革マル派との「対立」の検証として、動労第4代青年部長の上野孝氏の拉致・監禁事件をさらにみていく。「松崎明秘録」には、脚注として、以下の記述がある(p.103)。

革マルによるリンチ 動労第4代青年部長であった上野孝が、革マル派によって拉致され、2年半にわたって監禁されていた事件を指す。「上野孝を偲ぶ」と題する碑文は、上野が「自ら信じていた党[革マルのこと]に裏切られ」て失意の末に死んだことを記し、「彼を裏切った党が、9.11 自爆テロを『画歴史的行為』と礼讃し、全世界の労働者・人民から孤立し、自爆への道へとひた走っているのは、けだし必然ではないか。つねに人民の側に立って、人民の中に深く入り、人民と共に闘い抜いてきた人、上野孝とはそういう男である」と結んでいる。

前号で紹介したように、松崎氏は上野氏らを「うちのメンバー」と呼び、革マル派に「バクられて事実上リンチをくった」と自ら述べている。「革マルはね、最初は分派活動を…」の部分を含わせ考えると、上野氏らは革マル派内の対立が原因で拉致・監禁されたと読むことができる。また、解説では、「JR総連革マル派幹部が同派主流に拉致された時」と明記している。つまり、JR総連内に主流ではない別の革マル派幹部のグループがいて、主流派と対立し、そのうちの1人である上野氏の拉致・監禁事件が発生した、と明言しているのである！JR総連がその上野氏を偲び、彼らの本丸・目黒さつき会館の入口に碑を建立している組織を見て、「JR総連と革マル派とは関係ない」と思う者がいるだろうか。

革マル派の中央とJR総連側との内紛は警察資料でも詳述！

革マル派「綾瀬アジト」押収資料に基づく警察資料には、事件の背景となった同派の内紛について以下の詳細な記載がある(宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と墜落」p.67)。これによると、沖縄に派遣された松崎氏の「うちのメンバー」たる上野氏は、革マル派中央労働者組織委員会の常任委員(トラジャ)ということになる(No.5 参照)。

平成元年の「3.5 提起」以降続いている組織内の内部思想闘争問題に対し、組織引き締めの陣頭指揮を取っていた黒田寛一は、平成4年に入院をした。この間に、当時の中央指導部が、黒田の意向に反した運動方針を提起(「3.1 提起」もしくは「DI 提起」と呼ばれている)し、これに従って党を運営していたため、黒田は病氣回復後、これら指導部を弾劾・肅正し、自らが先頭に立ち組織再建に乗り出した。沖縄県委員会では、「3.5 提起」を受け、組織再建に取り組んでいた県委員長が、その指導方針等について中央指導部から全面否定され、「県委員長を解任」されたうえに、軟禁状態でその責任を追及されたことから、M は身の危険を感じて組織逃亡を図った。この間、党中央指導部は、M に代わる指導部を沖縄に派遣したが、M の逃亡が発端となり、N 以下の沖縄県委員会の地元指導部のほとんどが、党中央指導部に反発する行動に出たため、黒田は、中央労働者組織委員会から「JR出身の常任委員数名」を事態收拾のため沖縄に派遣した。しかし、この者らは N 以下の地方幹部の方針に同調し、中央に残っていた他の「JR出身の中央労働者組織委員会常任委員」もこれに加担するようになったうえ、指揮下にあるJR委員会をも巻き込み、「反中央」意識を煽り、機関紙の購読拒否やカンパの上納停止を行わせるなどの事態にまで発展していった。

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月6日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 27】

本間氏証言も革マル派の内部対立を裏付ける！

JR総連側が革マル派と無縁だと主張する理由に挙げている両者の「対立」は、実は革マル派内部の主流派とJR派との「対立」であることを検証してきた。元JR東労組中央執行委員(現JR労組委員長)の本間雄治氏の裁判での証人尋問(2009年3月3日)でも、それを裏付ける証言がみられるので紹介したい。

(被告代理人)陳述書を拝見しますと、本間さんたちがいたJR内の革マル派というのと政治党派としての革マル派中央というところとの間に緊張関係があったことがあるということが述べられていますが、これは、時間的に言うと、いつごろのことを指しておられるんですか。(本間)1991年だと思いますけれども、その年の3月5日に行われた革マル派の定時集会で3.1提起というのが出されまして、いわゆるその党内での路線の問題について対立をしておりました。(代理人)路線対立ということですか。(本間)そうです。

(原告代理人)「解放」を読んでいるんでしょう。「解放」を読んでいるながら、革マル派の1991年3月5日の集会の内容とか、92年3月1日の春闘集会の内容とか分からないというのはおかしいでしょう。(本間)91年の3月の集会は参加していましたから分かりますけれども、その後は「解放」も取っていませんので分かりません。読んでいません。(代理人)だってL読で「解放」を取っていたと陳述書で言ったのではないですか。(本間)91年までです。(代理人)それ以降は取っていないんですか。(本間)取っていないですね。(代理人)どうして取らないんですか。(本間)対立をしたからですよ。

(裁判官)先ほど反対尋問で出ましたが、あなた自身がL読と呼ばれる学習会に参加し、「解放」という雑誌を購読されていたのは、1985年から91年までと理解していいんですか。(本間)はい。(裁判官)1991年以降は、革マル派の活動としては、先ほど出ていた財担会議に出席してカンパを納めることが中心だったというふうに考えていいんですか。(本間)それは91年に対立して以降、党中央とは別な考え方でやっていくというふうに認識しておりましたから、党中央に対するカンパというよりも、JR内におけるカンパという認識でおりました。(裁判官)JR内における革マル派に対するカンパをしていたということですか。(本間)はい。

JR革マル派は「対立」後もカンパを集約し党中央への上納は凍結！

前号の警察資料には「(JR委員会をも巻き込んだ)カンパの上納停止」とあるが、本間氏の証言によれば、JR革マル派としてのカンパは、「対立」後も引き続き集約しており、党中央へのカンパの納入を凍結していたというのが実態のようだ。これは相当な金額に上ると思われるが、カンパを集約していた小田氏や田岡氏に事実を聞いてみたいものだ(NO.8を参照)。また、上記証言にある、革マル派の機関紙「解放」を取らなくなったことも、前号の警察資料にある「機関紙の購読拒否」によるものと思われる。

警察資料と本間氏の証言とを照合すると、両者の内容が符合し、「対立」の内容が何となくわかってくる。本間氏の証言をみても、革マル派内での対立はあったにせよ、あくまでも党中央(主流派)とJR革マル派との間でのことであり、検証を進めるほど、JR総連への革マル派の浸透の疑惑は、否定されるどころか、ますますその可能性が高まってくる。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月8日発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 28】

奇怪な「九州労大量脱退事件」から革マル問題を検証！

検証を通じて、どうも1991年頃から革マル派内において、党中央（主流派）とJR革マル派との間で、運動方針を巡る「対立」が発生し、JR革マル派では革マル派機関紙（解放）の購読拒否、カンパの上納停止が行われたことがわかってきた。そもそも、革マル派がことさらに関与しようとすること自体が不自然で、むしろJR総連・東労組への同派の浸透の疑念が高まると考えるのが普通だ。本号からは、両者の関係を疑わせる、2000年に発生した「九州労大量脱退事件」と「坂入氏拉致監禁事件」を検証したい。

「九州労大量脱退事件」とは、2000年10月5日にJR総連参加の九州労（924名）から、組織の7割を超える651名の組合員が突如脱退（17日、さらに86名が脱退）し、JR九州労組（JR連合）に加入届を提出した、常識では考えられない奇怪な事件である。JR九州労組はこの加入届を返却して個別に加入を呼び掛けることとし、結局、脱退者が新たに「九州ユニオン」を結成（2001年11月）してJR総連に加盟、残る九州労も合流した。なお九州ユニオンは、この事件の経過や対応などを巡ってJR総連と対立、2006年2月に彼らから脱退（JR総連は2007年6月に九州ユニオンを除名）し、現在はJR九州内にJR総連の組織は存在しない。そして、この事件をきっかけに「坂入事件」が発生したのだ。

過激派張りの東労組の糾弾声明！なぜか内ゲバ事件にも言及

事件の内容に立ち入ると大量の紙面を要するので、事件と革マル派との関係に絞って検証したい。事件発生後、JR総連や傘下の各組合は相次いで大量脱退を糾弾したが、その中から東労組の声明を紹介する。とてもまともな労働組合とは思えない異様な文章である。

九州労からの大量脱退＝JR総連組織破壊を怒りを持って弾劾する！＝国鉄改革の苦闘を踏みしめる暴挙を許さずただちに反撃のたたかいを！＝【2000年10月7日】

JR総連・JR東労組に結集するすべての組合員に怒りを込めて訴える！ 10月6日、JR九州労において、600名を越える集団脱退が発覚した。-(中略)- 組織破壊の首謀者どもは、脱退の理由を「JR九州労の独善的な組織運営」「対決型労使関係からの脱却」「革マル疑惑」などとあげつらい、養殖組合に屈服と忠誠を誓い、葛西らの下女として生きる道を選んだ。-(中略)- かかる事態は、JR総連・JR東労組への敵対行為であり、組織破壊攻撃である。われわれは怒りを持って弾劾するものである。われわれは、国鉄改革を推し進めるにあたって、故松下高崎地本委員長をはじめとして、何人ものリーダーを傷つけられ虐殺され失った。しかし多くの仲間達は、そのことをのりこえ、派遣、出向、若年退職、民間公的部門への転出、広域異動と、汗と涙を流して国鉄改革と我々の未来のためにたたかい抜いてきた。この仲間達の犠牲と苦闘の上に、わがJR総連・JR東労組は団結の旗をうち振るっているのである。組織破壊者どもよ、われわれのこのたたかいを振り返るがいい！養殖組合の下女になり下がった、みすぼらしく、醜悪な己の姿が見えるだろう！組織破壊者どもよ、覚えておくがいい！権力者に屈服と忠誠を誓う者に未来などない。戦争推進集団とともに暗黒の闇に沈むだけである！われわれは、この組織破壊者どもを絶対に許しはしない。全力でこの組織破壊攻撃を粉碎するものである。JR東労組のすべての職場から、組織破壊攻撃弾劾の怒りの声をあげようではないか！-(後略)-

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月13日発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 29】

革マル派は九州労再建をJR総連組合員に訴え！

前号に続き、「九州労大量脱退事件」の検証を進めたい。東労組の過激派張りの表現は、とても普通の労働組合の文章ではない。そもそも、九州労の大量脱退と国鉄改革との関係もわからないし、高崎地本・松下委員長らの内ゲバ事件の話が出てくるとも意味不明だ。JR総連を裏切るとは国鉄改革の否定だと言いたいのだろうか。JR総連だけが苦勞して国鉄改革を行ったかのような主張には辟易する。それにしても、一般組合員がこの文章を読めば、異様な組織から「われわれ」「仲間」等と呼んで欲しくないと思うことだろう。

「JR総連内の党員諸君はいまこそ聞え！」と呼び掛ける革マル派

革マル派は、事件後、機関紙「解放」でJR総連・東労組と同様、異常な関心を持って、大量脱退を糾弾し九州労の組織再編を訴える論文を次々と掲載した。革マル派がJR総連内部の問題に異常なまでに熱心に口を挟むのか。読めば読むほど両者に深い関係があると考えざるを得ない。「解放」に掲載された多数の関係論文の中から、ごく一部を紹介する。

怒りをこめて弾劾する JR九州労の労働組合組織再編に決起せよ！

革共同中央労働者組織委員会・交通運輸労働者委員会【解放 No.1641 2000年10月23日】

四人組による労組破壊を弾劾しJR九州労を再建せよ！

悲劇的な事態が惹起した。—JR九州労組指導部(JR連合加盟の「養殖組合」)にのせられ騙されたJR九州労(JR総連加盟)の四人組が、みずからが指導してきた組合員たちを養殖組合に売りわたし、組合組織を根幹から破壊したという事態が。この前代未聞の犯罪行為を、われわれは満腔の怒りをこめて弾劾する。そして、全国のJR総連組合員たちに、直ちに反撃に決起し、破壊された組合組織の再建・強化の先頭にたつべきことを訴える。—(中略)—「革マル派による組織介入・破壊」などという悪宣伝をくりひろげてきたダラ幹たちに抗して、JR総連組合組織を全面的に点検し、組織強化のために奮闘せよ！動労型労働運動の伝統の火を消すな！JR総連内の党員諸君は、いまこそ持てる力を存分に発揮して裏切り者四人組とこれに連なるすべての陰謀・策略分子をうち砕くために不退転の決意をもってたたかえ！“養殖組合への加入は九州労の戦略的展望にもとづく加入戦術である”などと犯罪を正当化するような言辞を吐く徒輩を、JR総連内ケルンは断固として糾弾し、こうした徒輩を打倒して新たな組合組織体制をつくりなおすことが絶対に必要なのである。

文化人・市民に拒否された「反革マル」キャンペーン

—(前略)—労働組合は、それに参加している労働者・組合員の生活と権利を擁護するための組織である。したがってこの組織内でたとえわが党員が活動していたとしても、当該組合が同時に特定党派の組織であるわけではまったくない。労働組合がひとつの大衆団体であるのにたいして、わが党は、既成のあらゆる政党に、直接的には代々木共産党や社民党にとってかわる新しい革命的前衛党の建設をめざしている組織である。大衆団体の一形態としての労働組合と前衛党組織とは形態的にも本質的にも異なるにもかかわらず、この両者を故意に二重写しにして「JR総連＝革マル」などという神話を流布しているのは、「鬼の動労」の伝統を受け継いだJR総連組織を壊滅させるための国家権力の陰謀であり、葛西＝大塚のためにする非難でしかないのである。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月15日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 30】

「九州労大量脱退事件」はJR革マル派が首謀！

前号の通り、革マル派は「九州労大量脱退事件」について機関紙「解放」に毎号論文を掲載しJR総連組合員のみならず、「JR総連内の党员」や「JR総連内ケルン」にも決起を訴え、JR総連内の革マル派党员の存在を自ら認めた。JR総連・東労組は、なぜか「革マルは一人もいない」と断言しているのだが、この問題については改めて検証したい。

「九州労大量脱退事件」は「坂入氏拉致・監禁事件」に発展！

ところで、産経新聞(2000年12月3日朝刊)は、「JR九州労の集団脱退の真意は…」
「不気味、革マル派の影」と題して、次のように報じている。

- (前略) - 今回の集団脱退は、中央組織の動きを抜きには語れない。昨年(注:1999年)1月に公安調査庁が出した「内外情勢の回顧と展望」ではJR総連最大の加盟労組「JR東労組」に革マル派が浸透していると記載された。- (中略) - そうした中、革マル派は今年2月、機関紙「解放」にJR総連の幹部を批判する植田琢磨議長名の異例の声明文を掲載した。これにより両者の確執が表面化、関係がキナ臭くなっている。JR九州労の集団脱退発生後の11月3日には、九州労の大量脱退に関与したとされるJR総連OBの男性(60)が埼玉県内で行方不明となった。革マル派による拉致事件とみたJR総連は、埼玉県警吉川署に告発。さらに革マル派とみられる人物からJR総連の小田裕司委員長に「残る人生を権力の犬として死んでくのか」などの脅迫文が送り付けられたことから、同署に告訴もした。これに対し革マル派は機関紙で「満身の怒りをこめて弾劾する」と敵対感情をむき出しにしている。- (後略) -

(2000年)11月3日に拉致されたJR総連OB組合員とは、JR労研中央幹事会事務局長で革マル派から「古参党员」と呼ばれる、「南雲」なる党员名を持つ坂入充氏のことだ(No.12参照)。革マル派は「解放」で坂入氏が「九州労大量脱退事件」の首謀者の中心人物であることを明らかにした。坂入氏がこの戦術の失敗を革マル派による拉致・監禁下での「大討論集会」で、「九州労組合員を九州労組に売り渡した問題の総括」と題して自己批判した内容を再度紹介したい(「解放」1649号 2000年12月18日)。

九州労組合員を養殖組合に売り渡し、動労以来の戦闘的労働運動の伝統をぶちこわしてしまった裏切り行為の全責任はJR労研中央幹事会事務局長である私と事務局メンバーである船戸、田岡、新潟の松崎、および総連委員長小田にあります。この犯罪行為についてJR戦線およびすべてのたたかう労働者同志に心からお詫びし、自己批判いたします。

そもそも普通の労働組合で、600名以上の組合員が前触れなく突然に脱退し、敵対労組に一斉に加入申請する事態が起こり得るだろうか。そして坂入氏は「九州労大量脱退事件」は、自分とJR総連小田前委員長らが仕組んだと自ら述べているのだ！この奇怪な事件は、JR革マル派が仕組んだことは間違いない。その戦術に怒った革マル主流派が、内部対立していたJR革マル派の首謀者・坂入氏を拉致・監禁し、この問題を巡り自己批判させたことは疑いない。1994年の動労第4代青年部長の上野孝氏の拉致事件と同じ構図だ(No.25、26)。検証すればするほど、JR総連への革マル派浸透の疑惑は確信に変わっていく。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月21日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 31】

JR総連と革マルを結ぶ「坂入事件」を徹底検証！

組合関係者が過激派に拉致され自己批判させられる労働組合など、JR総連以外にはあり得ない。JR総連側は「坂入事件」を持ち出して彼らと革マル派との「対立」を強調するが、経過を検証するにつれ、「対立」は革マル派内部の問題であり、JR総連に革マル派が浸透しているとの確信はますます深まっていく。一般組合員までも巻き込んだ不可解な「坂入氏事件」について、紙面の都合上、核心部分に絞って検証したい。

JR総連は「革マル派活動家『浅野』が坂入氏を拉致した」と告発！

JR総連は、2000年11月16日、革マル派が坂入氏を拉致・監禁したとして、当時の小田委員長名で警察に告発状を提出した。なぜ革マル派が拉致したとわかるのか。革マル派関係者の氏名を明らかにする異常な告発状は、同派との関係を自白しているようなものだ。

告発状(告発人 小田裕司[注:JR総連委員長(当時)]、被告発人 氏名不詳) 告発事実[抄]

2. 坂入充さんは、平成12年11月3日午前9時頃、旧職場の仲間達と一泊の予定で奥多摩ハイキングに右自宅を出ました。ところがそれ以来、今日まで、手紙一通以外電話等を含めてなんらの連絡がありません。坂入充さんは、以下記載するような事実により政治党派革マル派構成員により連れ去られ電話一本もかけられない状態で、監禁されているものと推測されます。
 - (1) 11月3日、午前10時35分頃、「浅野です。旦那さんと討論させてもらおうと思って。いずれ本人からも連絡してもらいます」との電話が坂入さんの自宅へありました。浅野という人は革マル派の活動家のようです。
 - (2) 坂入充さんは、心筋梗塞の持病を持っていて、薬をのんでいます。当日は2日分の薬しかもっていなかったようです。ところが、11月4日午後男、女の2人が坂入さんの自宅に「薬と印鑑を取り」にきました。男の方は、木下某という革マル派の大物活動家だそうです。
3. 坂入充さんが革マル派に拉致、監禁され、自己批判を強要されている原因は、
 - (2) 最近JR総連加盟のJR九州労で発生した集団脱退を巡り、革マル派は、同派機関誌の「解放1642号(10月30日)」の紙上において「退職したJR総連のOBメンバー(南雲が)…」と誹謗中傷をおこなっていました。この(南雲)というのは坂入充さんのようです。なお、集団脱退に関連して10月9日午後2時半頃、JR九州労組合事務所に革マル派と思われる小西某、神保某、浅野某という3人が乱入し、暴行、窃盗を重ねました。このときの浅野某が、前述の電話の浅野と同一人物のようです。
- (3) 11月11日、午前10時45分頃、JR総連加盟のJR九州労の組合書記、小西光子(11月10日に解雇通告)がJR九州労組合事務所に来て、このたびのJR九州労の大量脱退に関し、「坂入さん本人が、『大量脱退劇は、坂入さん、田岡さん、船戸さん、北さんで意思し、決めたことであった』と言っている」と述べています。11月11日現在、「坂入さん本人」から話を聞けるのは、拉致した者かその仲間以外にはいないはずです。
4. 以上の状況などをあわせ考えますと以前からJR総連への介入を阻止されている革マル派は、JR九州労の大量脱退という事態に坂入充さんが関与していたと思いこみ、同人を徹底追求していくためにこのたびの監禁という犯行に及んだものと判断されます。

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月22日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 32】

「坂入事件」でJR関係の革マル派氏名が次々出現！

坂入氏を拉致・監禁したとして革マル派を告発したJR総連は、告発状に、「浅野」「木下」「小西」「神保」など事件に関与する革マル派メンバーの氏名を明らかにした。名刺を渡すはずもなかつたのに、なぜ、JR総連は革マル派活動家の顔と名前がすぐに分かるのか。

宗形明著「もう一つの『未完の国鉄改革』」(高木書房)によると、「浅野」は田町電車区出身で「真国労」の初代副委員長であった人物、「小西」は鳥栖機関区出身の元動労の革マル派九州政治局員(妻は九州労書記)、「神保」は動労中央本部役員の地位に長期間あった新鶴見機関区出身の人物らしく、いずれもJR総連につながる動労や真国労に深く関わる者ばかり。この3人は10月9日に九州労本部(JR総連)に乱入し、「九州労破壊を行っているのはお前だ」「俺たちがつくった九州労を壊されて黙ってられるか」などと罵声、暴言を繰り返したという(九州労「組織部報」223号)。なお「木下」とは、「西条武夫」なるセクトネームを持ち、「党革マル派大幹部として五指の内に入る地位にあった模様」とされる人物らしい(宗形明著「JR東日本労政『20年目の検証』」)。JR総連の周辺には、奇怪な事件を巡って、次々と革マル派の面々が出現してくる。およそまともな組合ではない。

坂入氏はJR総連告発状での革マル派活動家の暴露を非難！

「九州労大量脱退事件」を首謀したとして自己批判した坂入氏は、「私を利用し、革マル派を権力に売り渡すJR総連の一部指導者を弾劾する！」との声明(「解放」1649号、2000年12月18日)で、次のように述べている。

-(前略)-小田君は、「坂入が拉致・監禁されていないなら、私達の前に出てこい」と言っているらしいが、頭を冷やしてよく考えて見てほしい。私は「反権力・反弾圧」を自認するJR労研の中央事務局局長であり、やせてもかかれても革共同革マル派の一員として闘ってきた人間なのだ。「早く家に帰れ」と言うが、公安デカが手ぐすねひいて待ちかまえ、「事情聴取」と称してそれこそ「拉致」されることばかりきっているところへ、どうしてのこの「帰れ」というのだ。諸君らは、私をも権力に売るつもりなのか。反権力の党の党員として重要な党内論議をやる場合に、権力の弾圧と介入を許さないために、一定の防衛上の配慮をするのは当然のことだ。-(中略)-皆さんは「告発状」それ自体を読んだことがあるのだろうか。実際大変なことが書かれているのである。まず文中に固有名詞がずらりと出てくる。A、J、KおよびK夫人、国鉄時代から組合に若干でも関わっていた人ならすぐ思い出すはずである。国鉄労働者としてともにスクラムを組んで闘った仲間だからである。昔の革マル派系全学連書記長の名前も出てくる。当然、警察権力は「告発状」を手にとれた人たちの逮捕を考えるはずである。いや現に、A、J宅は権力の監視下におかれているのだ。たとえ今対立があったとしても、実名を伏せるぐらいの配慮は出来ないものなのか。まったく常軌を逸しているのか言いようがない。-(後略)-

Aは「浅野」、Jは「神保」、Kは「小西」であることはすぐにわかる。この声明を、坂入氏の意志で述べたにせよ、革マル派の強要で述べさせられたにせよ、JR総連と革マル派とが入り乱れ、きわめて深い関係にあることは、誰がみても明らかだ。仮に「対立」があったにしても、革マル派内での対立であったことがさらに浮き彫りになってきた！

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月27日発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 33】

大物党员・坂入氏はJR総連内革命的ケルン建設を訴え！

JR総連と革マル派がこれほど激しく争奪戦を繰り広げる渦中の坂入氏とは、どんな人物なのか。すでに、革マル派が「古参党员」と呼ぶ坂入（＝南雲）氏は、「JR労研中央事務局長」で「九州労大量脱退事件」の首謀者であること、また、同派機関紙「解放」（2000年6月26日1625号）で、『動労型労働運動の伝統を甦らせよ』との大論文を掲載していることを検証した（No.12）。坂入（＝南雲氏）は、この論文で次のように訴えている。

6月4-5日、JR総連の定期大会が開かれ、執行部人事が一新された。-(中略)-産業報国会と化した「連合」の内部にあってなお、政府の戦争準備に反対してたたかう組合であろうとしている。-(中略)-あらたに若返った体制(注:小田委員長-山下書記長体制)のもとに、JR労働運動を再生しようとする意気込みを、今大会の議論の中に、われわれは感じる。21世紀のJR総連の運動をつくり出すために、“古き革袋を破り新しい革袋に新しい酒を入れるのだ”という熱い意欲をわれわれは感じるのだ。この新しい酒とは、ほかでもない。40数年にわたる「動労型労働運動」の戦闘的伝統を今日的にうけつぐということであり、労働組合組織を執行部がひき回すのではなく、それとは逆に、職場における闘いを基礎にして、労働組合組織を強化することである。-(中略)-われわれは、組合内に左翼フラクションをつくり出すだけでなく、さらにその内部に革命的フラクションをつくり出すのである。-(中略)-JR戦線のたたかう仲間たちは、この論理を体得するだけではなく、あらゆる産別において戦闘的な闘いを担っている仲間たちがたえず主体化している革命的マルクス主義を、学習しなければならない。-(中略)-JR総連組織内に革命的ケルンをうち固め、それをよりいっそう強化することなしには、葛西-大塚体制がかけてくるであろう今後の反動攻撃にまっこうから立ち向かうことは、決してできないのである。-(中略)-新しい執行部のもとに、若々しい体制を整えたJR総連は、あらゆる弾圧をはねのけ、ネオ「民主化同盟」を尖兵とした組織破壊攻撃に抗して、彼ら三組合の下部組合員をJR総連傘下諸労組の組合員として獲得し、JR総連を拡大・強化し、過去13年間より以上の闘いを切り拓く可能性がうみだされたといつてよいからである。

坂入氏は、JR総連の新体制発足をベタ褒めし、職場の闘いを基礎に組織を強化し、JR総連内に「革命的ケルン」をうち固めることなどを訴えている。この主張は、現在、東労組や北海道労組の執行部が盛んに訴える「スト権論議」などの方向性と酷似している。

坂入氏は「自然と人間」講師団として全国のJR総連構成組織をオルグ！

JR総連の「尋ね人」なるビラでは、坂入氏について「在職中は、JR総連・JR東労組組合員として、また役員を担い組合員の利益を代表して組合活動を寝食を忘れておこなっていました」「私たちJR総連にとって、かけがえのない先輩指導者なのです」と記載したほか、前述「告発状」によれば、2000年3月末でJR東日本を退職した後は、「自然と人間」事務局員として仕事をしていたという。「自然と人間」とは、1996年7月に創刊したJR総連発行の月刊誌（2002年7月より「自然と人間社」発行）だが、坂入氏は、退職以前から事務局講師団を務め、JR総連傘下の単組の地方本部で「職場生産点の闘い」などをテーマに学習会を行っていた。坂入氏はただのOBなどではない。JR総連内に革命的フラクションづくりを目指す革マル派の大物党员が、実際に職場の指導を行っていたのだ！

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年7月29日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 34】

革マルの集団追及の手法はJR総連・東労組と酷似！

これまで、坂入氏が革マル派に拉致・監禁のうえ、自己批判をさせられたことを検証してきたが、東労組松崎元会長が「うちのメンバーで、革マル派に何年もパクられて事実上リンチをくった者が何人もいる」と述べたように (No.25)、革マル派は、過去から組織に従わない者、反抗する者を徹底して糾弾してきたようだ。このことから、JR総連・東労組の追及行動を想起する読者も多いはず。革マル派のやり方は、浦和電車区事件や三鷹電車区事件など、不都合な者を「組織破壊者」と決め付け、連日、多数で吊し上げる東労組のやり方とそっくりだ。革マル派は坂入氏と「討論」していると述べたが、東労組が浦和電車区事件の被害者・吉田氏を「説得」したと弁明しているのとまったく同じである。

驚くべき異常極まる革マルの暴力的糾弾のやり方！

前述の警察が作成したと確実視される革マル派「綾瀬アジト」の押収物の解析資料には、同派の反党行為者等への制裁方法が詳述されているので紹介したい。異常極まるやり方には驚くばかりだ (宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌」p.65～66)。

革マル派は、相互監視や幹部による点検等で構成員の規律違反を摘発し、違反者に自己批判を強要している。また、違反者に対しては、その程度に応じ「除名、権利停止、活動停止」等の処分を行い、特に異端・反党分子と見なした者に対しては、監禁・脅迫・暴力的査問等による徹底した追及を行っている。また、その者の所持品等は、全て組織が強制的に回収し、その者のイデオロギーと行動の詳細な分析を行い、同調者の解明、警察や敵対セクト等との繋がりの有無等を徹底的に調査している。更に、脱落者に対しても、最低限、権力への情報提供は行わないように確約させる等、組織防衛には異常とも思われるほど徹底した対策を講じている。

革マル派内では組織構成員各自が党規律に違反していないかどうかの相互監視体制をとり、違反者については、「ホウ・レン・ソウ」(報告・連絡・相談)の組織原則に沿って、上部機関等に報告させている。

反党的行動をとった者に対しては、「監査委員会」なるものを設置して徹底した糾弾を行い、自己批判させているが、それでも効果がない場合には、数名で取り囲んで「拉致」し、あらかじめ設定したアジト等に「監禁」して、1名の対象者に対して数名が24時間体制で監視している。この監視方法は、常時ドアチェーンを掛けて玄関を施錠し、トイレにも監視員が付き添い、就寝時には鎖で足を繋ぎ、この鍵の置き場所も定めておくという徹底した逃走防止策をとり、この監禁状態の中で反省・学習に専念させながら、自己批判を強要するというものである。そのうえで、特に重大な違反者に対しては、「追及査問会議」を開催し、大勢の同盟員の前で自己批判や決意表明を述べさせている。このような暴力的査問が行われていることは、組織内では周知の事実となっており、これに対する構成員の恐怖心が組織に対する離反、敵対を許さない思考を強制する要因になっている。

反党活動を行った「トラジャ」メンバーは、都内ホテルにおいて、全国から招集された約150名の同盟員等の前で、長時間にわたる糾弾を受けたうえ、自己批判を強要されている。この際の査問会場への移動は、各人ごとに数名の監視員が付き、手錠・マウスピース・ガムテープ等を使用して逃走防止の措置を講じたうえで、カーテン等で目隠した車両を使用している。